

幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和4年6月28日（火）午後3時～午後5時10分

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、三浦

そ の 他 市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田



■ 幸せについて考えることがなぜ必要か

○委員

本当の意味で苦楽を共にしていない世代が増え、社会がバラバラになる。インターネットから安易に情報を得ることになったような気になる。10年間の社会の変化は目まぐるしい。これらを踏まえて考えると、今、考えて、今、変えていかないと10年後にはほとんどの日本国民が不幸になると思います。

○委員長

10年後の未来はわかりませんが、急速な少子高齢化の進捗は過去に人類が経験したことがありませんので、過去の経験による解決方法では成立しません。そのため、過去の例に頼った解決ではなく、自分自身で考える必要があると思います。

また今の大学生は、どうしたら失敗しないのか、失敗した時にどう立ち直るのかをよく聞いてきます。まずアドバイスを受けるものではなく、自分自身で考える必要があるのではないのでしょうか。

○委員

今の若い世代は他者に対し、批判することや疑問を持つことよりも、まず受け入れ、認める傾向が強いと感じます。対立意見を突き詰める議論が足りないと感じることがあります。私は、まず、自分の考えを表現させ、その上で別の視点や逆の視点を伝えることによって、本当に答えが一つであるかどうかを考えさせる必要があると考えています。

○委員

個人が持つ答えは一つで良いと思います。ただし、社会での答えは複数存在します。まずは意見を持つ、そして他者の意見を聞く、問題意識を持っていないことが問題だと思います。今の教育は簡単に答えを求める傾向にあると考えます。

○委員長

考える時に正解でなくてはならないと思いがちですが、不正解でもよいと思います。外国人と話をするとときに日本はどんな国とよく聞かれます。日本人は答えられません。外国人は自信をもって答えられます。考えていないからだと思います。

○委員

自分自身でまちや国のこと、自分のことを常に考えることは大切だと思います。

○委員

幸せという言葉は非常に重要である。戦後、日本人の重要な価値観の単位は円（お金）でした。バブル崩壊以降、日本人が持つべき新しい価値基準は円(お金)ではなく、幸せであると考えます。そのために幸せについて考える必要があると思います。

○委員長

学校現場では幸せという言葉を使いますか。

○委員

幸せという言葉は日常的に使われる単語ではないので、学校現場でも多用されるものではないです。

○委員

「乾いたタオルを絞る」という言葉があるが、人の可能性は無限であるため、もっと絞ることができると思います。甘やかすことで現状に満足してしまうと、10 年後の喜びや満足につながらなくなってしまいます。

○委員長

今の学生は甘やかされて育てられている中で夢を持ちなさいと言われても、実感を伴っていないため、真剣に考えていないのではないのでしょうか。そのため独り立ちする時に、成功よりも失敗が多いことで呆然としてしまいます。小中学生の時に幸せについて考える必要があるのではないのでしょうか。

○委員

小さいころから、成長に応じ考えることを積み重ねることによって人間形成されると思いま

す。

○委員

議論を変えたいと思います。このままの日本で、皆さんの家庭や日本が幸せになる自信があると思いますか。私は不安です。

○委員

不安だけです。少子高齢化で変わっていくことがわかっているので自信はないです。

○市長

幸せについてなぜ考えないといけないかについては、私の考え方として、ひとつは人間として生きている限りは何か目標にして生きなくてはいけないという私の哲学です。もうひとつは、安易に比較してしまい、安易に優劣をつけ、安易に結論を出してしまっている。自分の家庭にとって、半田市にとって本当に何が良いのかを考える必要があると思いました。その時、何が本当に良いかの基準は自分自身が幸せかどうか、満足できるかどうか、ではないでしょうか。どこから始めるかについては小中学生から始めたい。

不安かどうかの質問に対しては、今の価値観で物事を判断していくことに私は不安を持っています。自立した精神で考える必要があります。

○委員長

危機感は共通でもっているのではないのでしょうか。教育界での危機感はあるのでしょうか。

○委員

文部科学省は10年スパンで教育課程や学習指導要領などを変えて時代に合うようにしています。途中で軌道修正も常に行っています。数値化された学力の育成か、発想力の育成か、など揺れ動きながら問題に対し、常に危機感を持って取り組んでいます。今は考える力は大切と言われています。

○市長

幸せであるかどうかという価値基準で考えることは文部科学省の範疇ではないと思っていますので、市の責任で取り組む必要があると思います。

○委員

教員においても働き方改革が声高に叫ばれている中で、新たな取り組みを市が行うには

現場が負担にならないような方策が必要です。

○委員

子どもが考える力をつけるためには、机上の学習ではなく、体験や対話が必要だと思います。

○委員

ティーチングではなく、コーチングが必要だと思います。道徳指導の参考文献を見ましたが、答えを出すようなティーチングの授業はやめた方が良いと思います。小学校の 6 年間で、考える機会を与えることで人はすごく変わると思います。

○市長

教員が指導の参考文献をその通り実施するのではなく、熟読した上でしっかり考え、授業を実施することが重要だと思います。

○委員

今の学校は、本当の人間教育をなおざりにし、良い就職先、学力の高い学校への進学など、就職数や進学数を競いあっている結果が、今の危機感につながっています。

○主任指導主事

小中学校では良い学校への進学数などを重視していませんが、保護者はそのような観点で評価している方もいると思います。

○委員

大人を変えることは非常に難しいことです。子どもから変えて、10 年後、20 年後の社会を変えていく必要があると思います。大人の基準を子どもに押し付ける必要はありません。

○委員

委員の皆さんは危機感を持っていますか。その結果、何を変えようとしていますか。

○委員

若者でも頼もしいと感じる点もあります。お年寄りが増えてきて優しい面がみられ、自分と自分の周りの幸せは考えられている点、こつこつまじめに分別やゴミ減に取り組むなど環境問題の意識は私たちの世代より学生の方が持っています。一方で、目先の就職、経済的にやっていけるかなどの不安に対し、親に甘えている現状がある。この甘えが、自分の決断に自

信がなく、行動に移せない要因になっているのではないかと思います。この点に私は不安を感じています。自分で考え、思い切った行動に移すことは必要だと思います。

○委員

今の若者が考える力が弱く、他者から言われたことを素直に受け止めて行動しているとするならとても不安です。考え抜いたうえで自己を確立することや、嫌われる勇気が必要だと思います。こじんまり同調するだけの社会では、世界で通用しないです。チルチルミチルの青い鳥の話はとても良い話です。二人で、外に出て喜びや悲しみを経験したから、気づかなかつた幸せに気づくことができたと思います。

○委員長

若者は素直で頼もしい点があるから期待したいと思います。だからこそ、より深く考える力を育む必要があると思います。

○委員

今の若者は素直で頼もしいのは間違っていて、素直で頼りないと私は思います。

○市長

素直に行動できる点は長所だと思います。自己肯定感が低いことが問題だと思います。

○委員

現代は情報にあふれている点も要因だと思いますが、全体を見ず、一部だけを見て、いいところ取りをしたがる傾向があると思います。一方、自分の組織の悪い点に目が行きがちになります。良い点を見つける、理解することが重要だと思います。海外で自分の街や国の自慢ができない理由にもつながると考えます。改善するには、海外から日本を見ることが良いのではないのでしょうか。例えば、寺院などの拝観料では値段が高いと感じることがあるのではないのでしょうか。しかし外国人に日本の守るべき文化であり誇りや愛着が持てるものと説明していると、守るべきものとして、高いとは感じなくなります。

○委員

最たるものが税金だと思います。税金を取られたと表現する方が多くいますが、税金は取られるものではありません。

○市長

幸せについて考える時、判断基準を持つことが自己肯定感や自律につながっていくのではないのでしょうか。

○委員長

自分自身の判断基準を持つためにも幸せについて考える必要があると思います。また、大人が明るい未来を感じているかどうかについて皆さんの意見を伺いたいです。

○市長

大人は明るい未来を感じるかどうかについて考えたこともない方が多いのではないのでしょうか。

○委員

大人が明るい未来を持っていないから、それを子どもが感じているのではないのでしょうか。だから、本当は変えるべきは大人であると思いますが、これはとても難しい。重要なのは大人が明るい未来を感じない、考えない現状を分析し、子どもに対し改善の取り組みするのがこの会議の趣旨であると思います。

○委員

学校で取り組んだとしても家庭で否定されると、どのような取り組みも無意味になってしまいます。親も一緒になって取り組んでいく必要があると思います。

○委員長

自分の価値観をもって幸せについて考えることは、保護者も含め必要です。

○市長

保護者が変わることも大切だとは思いますが、この会議では小中学生に絞って議論していただきたいです。

■道徳の授業について

○主任指導主事

大分県教育委員会が先生向けに道徳の授業をどのように作るかをまとめた資料です。道徳は授業だけではなく学校教育全般で行っています。自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自律した一人の人間として、他者とともによりよくするための基盤となる道徳性を養うことが目的です。今日の会議で出てきたキーワードとの共通点は多いです。道徳科

ではいろいろな価値観を 22 にまとめています。学校現場での道徳授業では普段の生活でじっくり考えられていないと思われる道徳の価値観を取り上げ、授業を行っています。この補充に加え深化、統合を行います。

○委員

この会議で目指すところと道徳科の目指すところは共通点が多くあるが、道徳科はティーチング主体であることと、道徳が個を対象としている点で守備範囲が狭いのではないのでしょうか。幸せになるための条件を明らかにすれば違いが明確になると思います。

○市長

道徳の延長線上にこの会議の目指すところがあるわけではないと思っています。道徳を否定するものではありませんが、教員は、いろいろな要素を包括したうえで、幸せというキーワードから考えて、アプローチをしてもらいたいです。

○委員

幸せなるために考えることは絶対必要だが、その結果、何が幸せかについては人によって異なるものであると思います。道徳は結論の方向性が決まっているので、幸せについて考える教育とは根本的に違っている点と考えます。

■アンケートについて

○事務局

別添のアンケート案を教員に実施したいと考えています。

○委員

【実現したいこと】に記載のある市長公約で市民一人一人の幸せを実現するためにアンケートを実施するようにも見えます。

○委員長

【実現したいこと】の記載がわかりにくいと感じるため修正した上で、実施してください。

○事務局

改めます。

<終了>